2019 年 8 月 1 日～2 日に東京で行われた第 37 回受精着床学会に奥院長、培養士 2 名が参加をしてきました。

猛暑の中、かなり体力を奪われてしまいましたが、得るものは本当にたくさんありました。

今回の学会ではタイムラプスによる胚の評価や遺伝子検査に関する発表に関心が高かったのか、会場が常にいっぱいになっていました。

多くの施設で出された貴重なデータを拝聴し、個人的に今回本当に得るものが大きかったです。

当クリニックで発表した 2 題をご紹介します。

『前核形成時間が妊娠予後に与える影響』

これまでは前核は数的な評価つまり、異常受精を除く目的でしたが、前核形成までの時間が妊娠予後に影響がある可能性を示すことができました。

『割球接着開始後の胚の発育速度と妊娠率の関係』

胚盤胞発育過程において細胞が接着する過程は必須ですが、接着からの発育速度には至適速度があり、妊娠率を左右する一つの指標となる可能性を示すことができました。

最後に企業ブースや医療書籍を見て回って新しい情報を入手でき、充実した時間でした。

培養士　今井